

参考資料：岡山縣上道郡古都村史、現代古都の郷、ふるさと古都
岡山史蹟めぐり（岡山市立西大寺公民館古都分館）、岡山市の地名

しじかい 穴甘氏

穴甘出身の豪族で、出身地を氏としていたらしい。

山王山に穴甘城を築いていた。はじめ浦上氏に属していたが直家の台頭とともに宇喜多氏につくようになった。

天正9年8月宇喜多多勢は毛利勢と兎島の八浜で戦ったが、苦戦に陥った。穴甘太郎兵衛は他の勇士6人とともに奮戦して宇喜多多勢を有利に導いた。7人は八浜の7本槍と称せられた。

穴甘氏は直家の死後も秀家の家臣として岡山の城下町に移り住んだ。宇喜多家分限帳には「穴甘太郎兵衛千二百石」など数人の穴甘氏の名が連ねられている。

宇喜多家滅亡後はみな浪人したものと考えられる。

穴甘古庵は浪人後は医者となり、その子宗仙は延宝3年池田家に召出されて御殿医となった。参勤交代の際は、度々江戸にのぼり侍医としての役目を果たした。

山王山の南麓に大きな五輪の墓が現存している。墓碑には「穴甘宗仙元禄7年12月17日没」と刻まれている。